

昆虫類

動物のなかで種数が多いのは、昆虫類です。1978年の調査では、9目201種の昆虫が報告されています。今回の調査では18目252科1368種が確認されました。そのなかで、コウチュウ目が45.9%、チョウ目が20.0%、カメムシ目が9.9%、ハチ目が8.0%、トンボ目が5.1%で、これら上位5目で草津市の全昆虫の約90%を占める結果となりました。

一方、1978年の調査結果以降の特徴的な昆虫相の変化として、希少な水生昆虫の減少、分布域を拡大している種の増加、外来種の増加をあげることができます。

ナガサキアゲハ、タイワンウチワヤンマ、ミナミアオカメムシなどは、温暖化の影響で徐々に北へ分布域が拡大したと言われており、草津市では普通に見られるようになりました。ムラサキツバメなど人為的な植栽によって分布を拡大した可能性が高い種も見られます。1978年の調査では、アメリカミズアブのみが外来種として確認されていましたが、今回の調査で8目38種の外来種が確認されました。

滋賀県レッドデータブック2000年版・2005年版・2010年版に記載されている種のうち、草津市で記録されているものは6目26科35種です。昆虫類は種数が多いため、今後の調査で、草津市からの昆虫の記録は増加すると思います。皆さんも身近な自然で昆虫を探してみたいはいかがでしょうか。



アオスジアゲハ（松田征也）
翅の真中に縦に青色の帯があるのが特徴。成虫は、花や樹木のまわりを飛び回る。幼虫の食草は、クスノキ科のクスノキ、タブノキなど。



オオシオカラトンボ（松田征也）
シオカラトンボより大型で、オスは濃いめの水色。成虫は7～8月に見られる。ため池や水田のまわりの棒の先などによくとまっている。成虫はカヤハエなど飛翔する小昆虫を捕食している。



オオカマキリ（松田征也）
草地にすむ。チョウセンカマキリ（カマキリ）に似ているが、より体が大きい。後翅の根本には紫褐色のまだらがある。肉食性で、チョウヤセミ、バッタなどを捕食する。



クマゼミ（松田征也）
都市部の公園や街路樹などに多い。大型のセミ。7月下旬から8月にオスは「シャシャシャ」と鳴く。メスは木の枝などに産卵する。都市部で増えている。

草津市の1978年と2013年の昆虫相の比較

目名	1978年	2013年	目名	1978年	2013年
トビムシ目	0	3	アザミウマ目	0	1
シミ目	0	2	カメムシ目	24	136
トンボ目	16	70	コウチュウ目	23	628
バッタ目	12	44	アミメカゲロウ目	1	9
ナナフシ目	0	2	ヒトノミ目	0	1
ハサミムシ目	0	3	ハエ目	27	55
シロアリ目	0	2	トビケラ目	3	15
ゴキブリ目	1	6	チョウ目	69	274
カマキリ目	2	4	ハチ目	23	109
チャタテムシ目	0	4	合計	201種	1368種

分布域を拡大した種類

チョウ類ではナガサキアゲハ、ツマグロヒョウモン、ヒメアカタテハ、トンボ類ではタイワンウチワヤンマ、カメムシ類ではミナミアオカメムシ、ミナミトゲヘリカメムシなど過去には見られなかったような種類が、草津市では普通に見られるようになりました。これらの種類は温暖化によって分布域を拡大したと言われていますが、その他に、

人為による二次的な分布拡大の例もあります。ムラサキツバメは、矢橋帰帆島の緑地公園内に植栽されているマテバシイで確認されています。また、下物町で確認されているアオカミキリ、ホシベニカミキリなども植栽された樹木について分布を拡大した可能性が高いと考えられます。



ナガサキアゲハ (中野徹)
幼虫の食草である柑橘類の栽培面積の増加や地球温暖化の影響で広がったとされる。下物町、青地町などで確認。



タイワンウチワヤンマ (武田滋)
南西諸島、九州、四国の南部が本来の分布。下物町で確認。



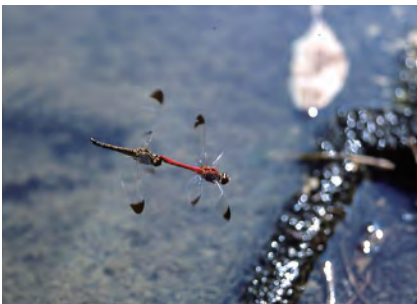
ミナミアオカメムシ (武田滋)
もともとは本州南部や熱帯地方に分布。下笠町、片岡町などで確認。

希少種

滋賀県レッドデータブック2000年版・2005年版・2010年版に掲載されている種類のうち、草津市で記録されているものは、トンボ目ではコノシメトンボなど11種、バッタ目ではコバネササキリ、ヒメコオロギの2種、カメムシ目ではヤスマツアメンボ、ハルゼミなど4種、コウチュウ目ではキベリクロヒメゲンゴロウ、シラホシハナムグリ、アカマダラハナムグリ、ヒメボタルなど11種、チョウ目

ではオオミノガ、アオイラガ、クロシオキシタバの3種、ハチ目ではウマノオバチなど5種の合計6目26科35種です。

今回の調査では、滋賀県レッドデータブック 2000年版・2005年版・2010年版に記載されている種のうち、水生昆虫類はほとんど確認できませんでした。川底や法面がコンクリートで整備され、水生昆虫に適した環境が減少していることが原因と考えられます。



コノシメトンボ (澤田弘行)
開放的な池沼や水田などに生息。追分町で確認。滋賀県RDBでは希少種。



アカマダラハナムグリ (武田滋)
成虫はクヌギの樹液にくる。矢橋町で確認。滋賀県RDBでは希少種。



オオセンチコガネ (高石清治)
樹林に生息。シカなど大型哺乳類のフンをエサとする。山寺町で確認。滋賀県RDBでは分布上重要種。



ウマノオバチ (八尋克郎)
広葉樹林に生息。下物町と馬場町で確認。滋賀県RDBでは希少種。



チャイロスズメバチ (高石清治)
平地や丘陵地の雑木林に生息。下物町で確認。滋賀県RDBでは希少種。

外来種の増加

1978年の調査では、外来種としてアメリカミズアブのみが確認されていましたが、今回の調査でキマダラカメムシ、プラタナスグンバイ、アオマツムシ、ウスグモスズ、ラミーカミキリ、コルリアトキリゴミムシ、クモガタテン

トウなど8目38種が確認されています。外来種の侵入経路は、移入された植物についてきたもの、荷物について運ばれてきたもの、人為的に放虫されたものなどさまざまですが、その地域の生態系を大きく攪乱する恐れがあります。



キマダラカメムシ (高石清治)
原産地は台湾から南西諸島。
東矢倉で確認。



ヘクソカズラグンバイ (高石清治)
東南アジア原産。ヘクソカズラが
繁茂する環境に発生。下物町烏丸
半島、矢橋町、山寺町で確認。



ヨコツナサシガメ (高石清治)
東南アジア原産。公園や庭園など
でもよく見られる。下物町、追分
町口八公園で確認。



ラミーカミキリ (高石清治)
東アジア原産。滋賀県には1980
年代に侵入し、山地を除く県全域
に分布。下物町烏丸半島で確認。



アオマツムシ (高石清治)
中国原産。市街地、公園、河川敷
などに多く見られる。馬場町、野
路東で確認。



プラタナスグンバイ (石田末基)
北アメリカ原産。街路樹や公園などに
植栽されているプラタナスとともに広
がる。下物町烏丸半島、野路で確認。



アルファルファタコゾウムシ (高石清治)
ヨーロッパ原産。マメ科植物を加害。下
物町、山寺町、馬場町で確認。



ブタクサハムシ (高石清治)
北アメリカ原産。河川敷や琵琶湖
畔に生えるブタクサ、オオブタク
サなどで発生。



アカウキクサゾウムシ (高石清治)
ヨーロッパ、北アメリカに分布。下物
町の琵琶湖岸、農業用水路で繁殖する
外来種のアカウキクサ類で確認。